

佛心

はじめに、この度はビザの問題によりトロント仏教会、ハミルトン仏教会、モントリオール仏教会、オタワフェローシップ、そして浄土真宗カナダ教団の多くの方々にご迷惑とご心配をおかけしていること深くお詫び申し上げます。現在も移民専門の弁護士の方とこの問題を早期解決できるよう尽力しております。不在のあいだ各寺院を支えて下さるために遠くからお越し下さっている青木龍也総長、生田グラント先生、マーティンジェームズ先生にこころより感謝するとともにトロント仏教会の開教使アシスタントである

ウィルソングジェフ先生、湯浅ジョアン先生、間所デニス先生に深く御礼申し上げます。また寺院を不在になってから多くの御門徒方からあたたかいお言葉を頂きましたこと感謝致します。

仏教会を離れてから自宅にて一人で過ごす時間が多くなり、そのこともあって仏教書や歴代開教使の先生方が書かれた法話を多く読ませていただき勉強させてもらっています。たまには仏教とは関係のない小説や新書を読もうとしましてもなぜか手だけは常に仏教書ののびていることも多々あります。それは顕浄土真実教行証文類や毎朝称える正信念仏偈和讃など、

同じものを何度読み返しても足りないものであると自覚させられると同時に、また読み返せば読み返すほど違った味わいが出てくるからだと思われまます。

将来について悩みはじめた高校生だったある日、父親から呼び出されて「なるべく多くの仏教書を読むように」と言われたことがあります。なぜかと問いかけたら、真宗僧侶は親鸞聖人の書物をもとに研鑽を積んでいかなければならないとの返答がきました。当時、本を読むことがあまり好きではなく、さらに難しい仏教書となると手に取ることすら嫌悪感を抱いたほどです。そして、どれほど読めば良いか尋ねると「往生するまで一生読みなさい」との一言が返ってきたのを覚えています。そのときは父の大袈裟な言い回しとしか捉えておりませんでした。

しかしこの度、多くの仏教書や法話を読むことであらためて親鸞聖人の御教えがいかに尊く偉大であるかを知らしめられています。また改めて考えさせられたのは、阿弥陀如来の大慈悲と智慧である「南無阿弥陀仏」は、決して本のみから読み取れる知識としての塊になつてはならないということなのです。なぜなら、それは如来からのおはたらきであるからです。大学生だったときに、ある先生が「南無阿弥陀仏は名詞ではなく動詞ですよ」と優しく教えてくれたのを思い出します。その先生はさらに、楽しいこともつらいことも悲しいことも怒り狂うことも自分の思い通りにならない人生も全て、仏様の教えにつながっている。そしてそ

のような煩わしい悩みを抱く私たちに、阿弥陀如来は「南無阿弥陀仏」の六文字のお名号としてはたらきかけて下さっているのだと教えてくれました。

私にとって動詞としての南無阿弥陀仏を感じる一番の場所は寺院です。法要等で集った御門徒一人ひとりの合掌と同時に口からこぼれでるお名号はなんとも有り難く、その念仏ひと声ひと声に頭の下がるおもいがするからです。また寺院で出会う御門徒方の話しを聞くと、ふとしたところに如来様のおはたらきが垣間見え、私自身も一念仏者としてもつたいたい程のご催促をいただいていたのだとお寺を離れてこの度さらに実感いたしました。

最後になつてしまいましたが、また皆様と一緒に寺院でこの手が合わせられる日が少しでも早く来ることを切に念じております。この度の問題で多くの方々にご心配とご迷惑をおかけしていること深くお詫び申し上げます。上げるとともに今後も早期解決のため尽力して参ります。

合掌

大内祐真

